

笑顔明中**11月**

平成23年11月1日 第8号

生徒が授業をつくる！

～「道徳公表会」から学ぶこと～

校長 保母 直彦

ついつい外出がしたくなる穏やかな日々が続いております。校庭の桜並木も赤く染まり、野山も少しずつ賑わいを増しているかのようです。

先日は、道徳の公表会、引きつづき29日におこないました授業公開・PTA親子鑑賞会には沢山の保護者のみなさんのご参加を得まして盛大に行うことができました。誠にありがとうございました。

また、PTA行事である夕方の防犯パトロール、朝の挨拶運動も予定をしていた計画を10月31日をもって全て終了しました。時間をやりくりしてご参加して頂きましたことに心よりお礼を申し上げます。現在までこの近辺での不審者の出現は一件もありませんでした。また、声は十分とは言えませんが、生徒のほうから挨拶してくれる姿も見られ、徐々に良くなっているという評価を頂き喜んでおります。これも一重に保護者のみなさんの献身的なご協力のおかげと感謝しております。

さて、10月26日に県下に参加を呼びかけ、道徳教育の公表会を開催いたしました。道徳の公開授業を全学級でいたしました。どの学級も生徒の活発な発言や授業を受ける姿を誉めていただきました。明中生の誠実さ、真摯な姿を見て頂いたものと思っております。

今回の発表のいくつかある特徴の中に、生徒による授業評価、授業改善があります。この取り組みについて、学習・図書委員会の活動として後期委員長の松井美咲さんが、全体会の中で発表をしてくれました。その内容は、『生徒の目線で、生徒自身が他学年他学級の授業を見合いました。それをもとに、自分たちの授業の有り様を見つめ、その中から学級の目指すべき姿を話し合い、よりよい授業を目指して取り組んだ。』というものでした。

その取り組みの中から、具体的に取り組んだことを紹介します。

ある学級で「発言者が限られる。」という反省ができました。そのときに、「全員一回は発言しよう。」として済ませてしまえば、精神的なかけ声の域は出ません。でもそのときは、こんな意見が出ました。

「発言をしたくても、どう答えればよいのかわからない。」「考えがまとまらない。」と。その改善策として、「自分の不十分な考えや意

見を仲間に聞いてもらったらどうだろう。」「友達の考えをヒントにしたい。」という意見が出ました。日頃、他の人の意見を聞き、それに触発されて自分の考えがまとまることはよくあることです。そこで、発表する前にグループ内で話し合う時間をとることにしました。

公表会当日、生徒たちは、グループで意見を交流をしていました。すると一人の生徒の、「よっしゃー！これでいく」というようなつぶやきがありました。そしてそのつぶやきに後押しをされるように、挙手する多くの生徒の姿がありました。

授業は、教師が主体の一方通行のようにも思えますが、実は、授業ほど双方向の共同作業であるものではありません。つまり問いかけに反応する受け手がいて、初めて学びは成立をします。その意味でも、生徒が自分達で授業に参画する取り組みはとても重要なことです。それは同時に、私たち教師にとっても生徒を主人公にした授業を仕組む力を付ける大切な場になります。教師と生徒が共に創る授業は、生徒が学ぶ主体となって、学力向上に多大な成果を生み出すに違いありません。道徳から他の教科へ、授業改善に向け生徒と教師の共同作業は、続いていきます。